

7月25日正午必着

明石春浦先生書

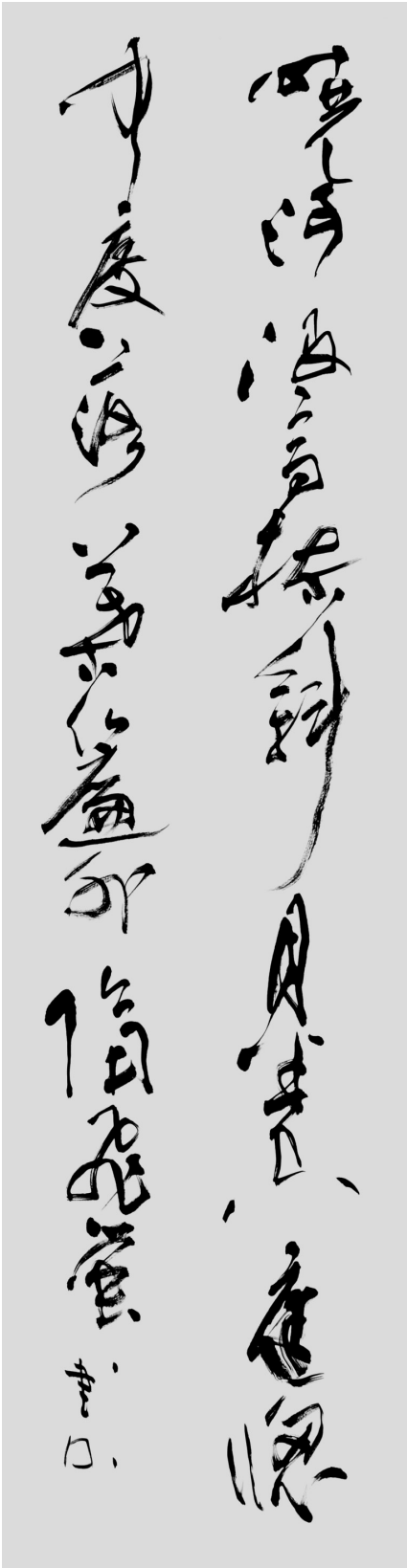
夜深人靜。獨坐觀心。始覺妄窮而真獨露。
 而妄難逃。又於此中得大機趣。既覺真現。而妄難逃。

よるふかくしずかなるとき。ひとりさしてこころをかんすれば。はじめてもしまわりてしんひりあらわるをおほえ。
 夜深人靜。獨坐觀心。始覺妄窮而真獨露。

(菜根譚)

萬籟寂たる夜半に靜室に獨坐して心を觀ずれば、始めて心の
 本體があらわれ自己の天眞の姿を知ることができるが、しか
 し猶お妄想の容易に除きがたきを思い甚だはじ入るのである

明石幸子書



暁河沒高棟。斜月半空庭。
 窓中度落葉。簾外隔飛螢。

(何遜)

あけがたの天の河は高い棟にかくれ、かたむいた月は人影もない庭になかばさしこんでいる。
 窓の中に落葉がはいたり、簾を隔て螢が飛びかう。

雨 (僧皎然)
 片雨拂簷楹 煩襟四座清
 霏微過麥隴 蕭瑟傍莎城
 靜愛和花落 幽聞入竹聲
 朝觀興無盡 高詠寄閑情

雨 (あめ) 僧皎然 (そうきょうねん)
 片雨 簷楹を払い 煩襟 四座清し
 霏微として 麦隴を過り 蕭瑟として 莎城に傍う
 静かに愛す 花に和して 落つるを 幽かに聞く 竹に入る声
 朝に観じて 興 尽くること無し 高詠して 閑情を寄す

茅蜩のこの日啼きそめ 山方やまだ夕淡き 合歡のふさ花 (北原 白秋)

雲行雨施 (易)
 芳春已共煙花盡
 孟夏俄驚草木長 (王守仁)

雲行き雨施す
 芳春已に煙花と共に盡き
 孟夏俄かに草木の長ずるに驚く

雲氣流行して萬物を生ずる。
 よき春も最早や霞や花と共にすぎゆき、初夏の候となつて今更の如く草木の茂るのに驚く。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

兼 志崇清眞 (吳穎芳) その志を持するには、清くして天真を重んずるがよい。



窪田華岳先生書

半紙部規定課題A

7月25日正午必着

知誰
貧不
共

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

7月25日正午必着

行書

誰不共
知貧

隸書

誰不共
知貧

明石春浦先生書

草書

誰不共
知貧

行草書

誰不共
知貧

お逢いしても何のもてなしもできず、ただともに道を語り合うだけ、貧乏なことは誰でも周知のこと
 帰り行く道すじに、降り残る雨は分たれて 舟をとどめ、親しき友に別れをつける
 松木立の茂る山上の夜明け、霜が明るくかがやき 竹やぶの中の住居は春となり、花のしげみは暗い
 私もかねがね隠遁したいとは思っているのだが いつになったら、君の住む山中に身を寄せることができるのだろう

送人歸山

石召

相逢惟道在
誰不共知貧
歸路分殘雨
停舟別故人
霜明松嶺曉
花暗竹房春
亦有棲閑意
何年可寄身

人の山に帰るを送る

石召

相逢うて 惟だ道のみ在り
誰か共に貧なることを知らざらん
 帰路 残雨を分かち
舟を停めて 故人に別る
 霜は明らかなり 松嶺の暁
 花は暗し 竹房の春
 亦た棲閑の意有り
 何れの年か 身を寄す可き

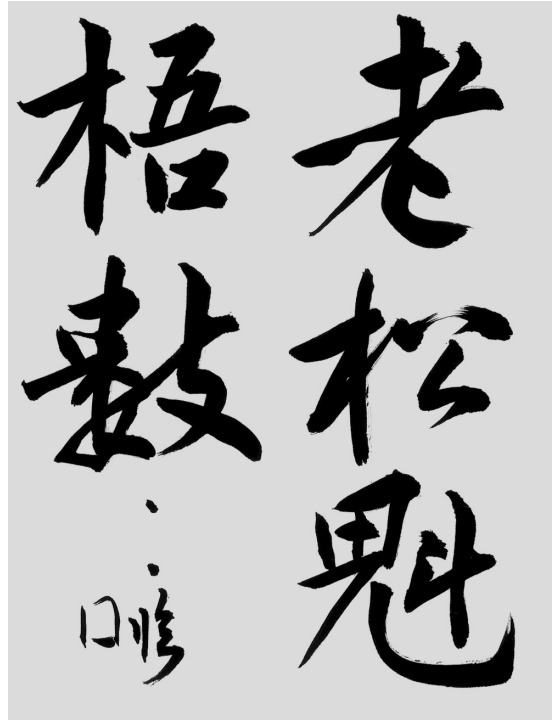
(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

依山築閣見平川
 夜闌箕斗插屋椽
 我来名之意適然
 老松魁梧数百年
 斧斤所赦今参天
 悟数百年斧斤所赦
 今天
 意適然老松魁梧
 数百年斧斤所赦
 今天

依山築閣見平川 夜闌箕斗插屋椽 我来名之意適然 老松魁梧数百年 斧斤所赦今参天
 山に依り閣を築き 平川を見る 夜 闌けて 箕斗 屋椽を挿む 我 来りて之に名づけて 意
 適然たり 老松の魁梧なる 数百年 斧斤の赦す所 今 天に参わる



夜 闌 箕斗 屋椽を挿む 我 来りて之に名づけて 意 適然たり



老松の魁梧なる 数(百年)

宋 黄庭堅・松風閣詩卷

黄庭堅は北宋後期の文人で字は魯直、号は山谷という。書は宋の四大家(蔡襄・蘇軾・黄庭堅・米芾)の一人にあげられ、北宋の強烈な新書風を代表する大家である。

庭堅は新旧両法党の争いの中で左遷させられ、幾度となく各地に流されるという不遇の主といわれている。

宋代書風の展開は、前時代の書法の衰退のあとを受け、伝統的な晋唐の書法の再建にはじまり、のちにやがて革新の気を帯びて、精神の発揚の象徴としての書への大転換がみられる。特に蘇軾・黄庭堅・米芾の三人はいずれも顔真卿の影響を強く受け、それぞれの風格をもって後世に受け継がれることになった。

この詩卷は、左遷による鬱屈した庭堅の気持が強くにじみ出ているといわれている。師と仰ぐ蘇軾の死と流謫中の不自由な境涯を嘆き悲しむといった心境を巧みに織込んでいる。その書は、いわゆる顔法の影響がみられ、更に適勁整密・姿態のおもしろさが魅力であるが、その上に不遇な境遇に屈しないで自らの天地を求めようとする強い精神がにじみ出ているように感じられる。(春廣)

※適勁：書・画・文章等の力強いこと。



しまのこども

中学一年

雨宮春聲先生書



ほくとしちせい

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



なみ
波しぶき

小学五年

榎戸春龍先生書



ひ
日やけ顔

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着



か き ごおり 氷

小学三年

藤田幸春先生書



ゆり はな の 花

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

くり 小学一年・幼年



森戸春濤書

メロン 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

粉末のジュースを冷水でとかかして飲む

小学五年

科学の発展のために力をつくす学者たち

小学六年

美術の時間に鏡を見ながら自画像をかく

中学

自然は生きていて常に変化してゆくものである

一般(級位)

明けばまた越ゆべき山の峰なれや空行く月の末の白雲(新古今和歌集・家隆朝臣)

明けばまた越ゆべき山の峰なれや空行く月の末の白雲

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

か	と
	お
み	く
え	に
ま	
す	ふ
	ね

幼年

は	タ
な	ご
び	は
を	ん
し	の
た	あ
	と

小学一年

が	そ
わ	ら
き	に
あ	へ
が	ど
る	う
	雲

小学二年

り	今
	朝
早	は
く	い
お	つ
き	も
た	よ

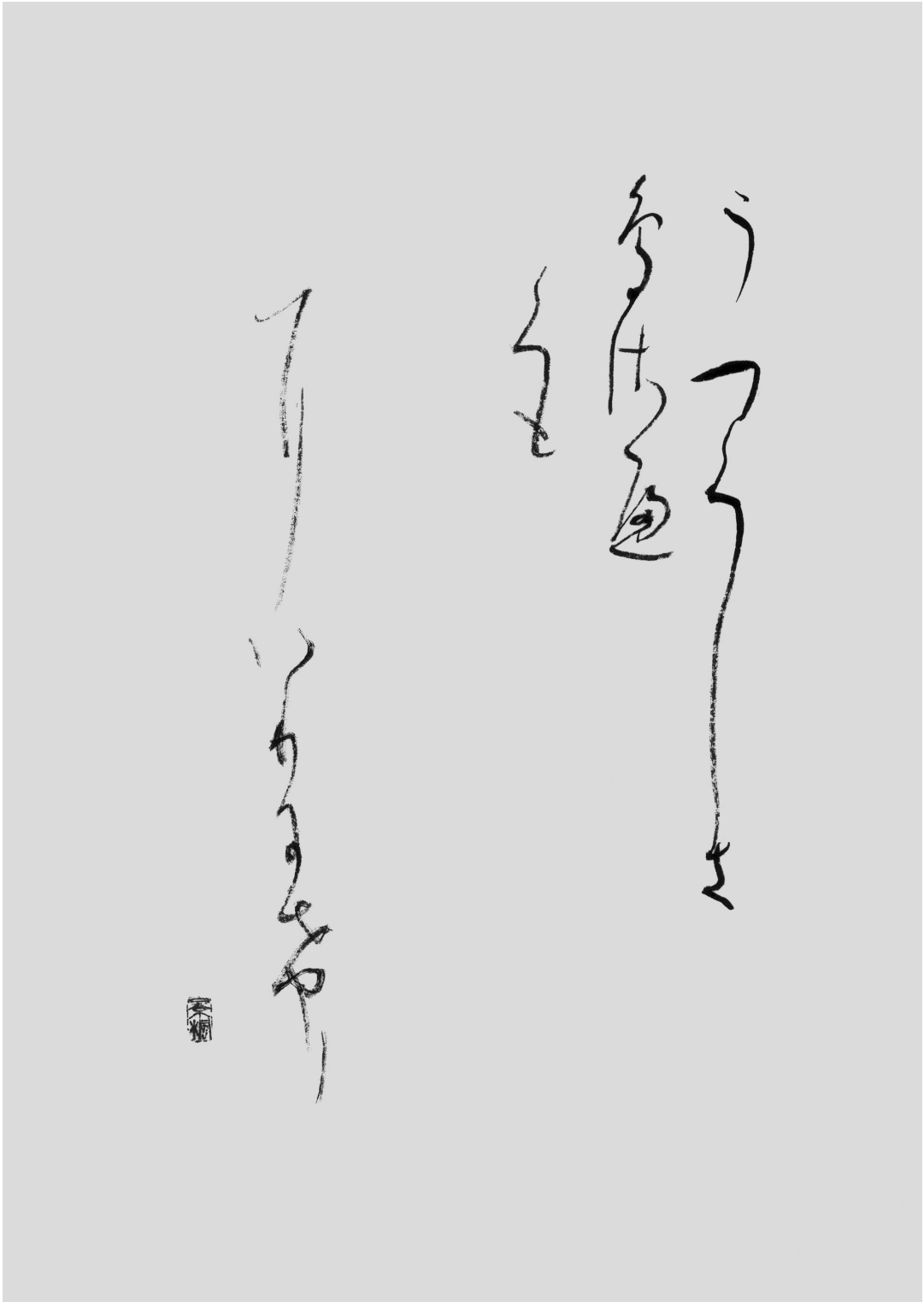
小学三年

で	平
千	和
ば	を
づ	い
る	の
を	り
お	家
っ	ぞ
た	く

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



うつくしき
支 鳥さへくもに
佐 遍 毛耳
利 尔 希
いりにけり
(高浜虚子)

岩本景楓先生書